



Leading Edge



Greeting

春真っ盛りの嬉しい季節になりました。JAA 会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。季節報としてお届けしている JAA Leading Edge Spring & Summer 号をお届けします。JAA の今年の新たな取り組みについても、佐々木会長からアナウンスがあります。ぜひ最後までお読みください。

Contents

1. 【会長挨拶】 「2018 年は、初心にかえて災害時救助に焦点を」
2. 【活動報告①】 「高知県須崎市にて、大地震発生を想定した合同訓練を見学」
3. 【新役員紹介】 荒井正也新副会長 就任挨拶
4. 【活動報告②】 JAA Meeting - Winter 2017 in TOKYO
5. 【Airboats Tips】 エアボートとホバークラフトの違いについて
6. 【会計報告】 2017 年決算
7. 今後のスケジュール
8. 会の目的

1. 【会長挨拶】

「2018年は、初心にかえて災害時救助に焦点を」

新しい春がやってきました。今年は、JAAの5つの柱の内、救助活動での地域貢献に力を入れて活動をしていきます。季節報にも毎回記載しております5つの柱を改めて申し上げます。

- ・ Popularization: 各種イベントの実施
- ・ Safety: 航行マナー講習、整備講習の実施
- ・ Leisure: レジャー用エアボートの提案
- ・ Rescue: 救助用エアボートの提案
- ・ Volunteer: エアポートによる地域貢献

このうちのエアポートによる地域貢献として、水害時の救助というものに本格的に着目し実行していきます。エアポート救助隊「サンダーバードジャパン」。JAAの分科会として有志を募り、まずは基礎となる部分から作っていきます。

ただ、このサンダーバードジャパンは、訓練を積んだ特別な人間だけが運営していくのではありません。災害が起こった時にはJAAが一丸となって対応していく仕組みを作っていきます。エアボートの良さをより深く理解している会員それぞれが、自分がいる場所でできることをしていく、そんな活動につながってほしいと願っています。

もうひとつ、いよいよJAAがエアポートを所有したいと思っています。これはかねてからの念願であり、今年はこれを叶える年にします。

あの3.11の震災、津波災害から、ひとりでも多くの命を救いたいと願う気持ちからスタートしたフレッシュエアーのエアポート事業。そして、その思いに賛同して設立されたJAAです。その時の心の誓いを達成すべく、さらに知恵と力をしばって努力邁進していきます。

2. 【活動報告①】

「高知県須崎市にて、大地震発生を想定した合同訓練を見学」

中国・四国管区警察局の広域緊急援助隊が、高知県須崎市浦ノ内東分の市立スポーツセンターにて行われた、大地震の発生を想定した合同訓練を見学しました。訓練は1月24日・25日の2日間に渡っておこなわれ、見学したのは24日でした。

広域緊急援助隊は1995年の阪神大震災を教訓に、同年6月に設置され、訓練は中国と四国の9県警の回り持ちで、各県で年1回実施しているそうです。

参加は、中四国9県で構成する「中国・四国管区広域緊急援助隊」や県警、消防、医療機関を含む約500人で、沖縄や福岡、福島からの参加も見られる大規模なものでした。

訓練は、高知県室戸市沖を震源とするマグニチュード9.0（震度6強から7）の地震が発生し、県沿岸部に大津波警報が発令された想定で実施され、隊員は、津波で流された車から被災者に見立てた人形を救助したり、浸水被害で孤立した被災者をヘリコプターで上空から救助したりしました。





全国で初めて導入したフレッシュエアー社製のエアボートも用いられ、白波が立つ強風のうえ小雪も舞う寒い中にもかかわらず、安定した走り、素晴らしい操船スキルで、長期浸水域で孤立した人々が素早く救助されていく様子を目の当たりにし、とても感動しました。

このような訓練の積み重ねこそが自信となり、厳しい環境下でも尊い命を救ってくれるのだと思いました。



救命いかだへ飛び移る隊員



救助中は隊員が救命筏をしっかり保持



救助時、片側に5人寄っても船は安定していました

3. 【新役員紹介】

荒井正也新副会長 就任挨拶

2017年12月より、荒井正也氏を新副会長として迎えました。

「この度、JAA 副会長任命を賜りました荒井正也です。佐々木会長の、『命令ではなく自分たちの気持ちで、救助を求めている人を助けたい』という言葉に大きく揺さぶられた1人です。JAA は、設立4年を迎えたばかりのまだ若い協会で、様々なことに取り組む途上がありますが、自分たちの気持ちと行動で救助活動ができるようになることを目指していきたいと思います。また、この協会では、まずはエアボートを沢山の方々に知って頂けるよう、イベントを開催し、試乗や、会員同士の交流などを図ることで普及活動に努めたいと思います。

不慣れですが精一杯務めさせていただきますので、どうぞ宜しくお願い致します。」

荒井さん、どうぞよろしくお願ひいたします。

4. 【活動報告②】

JAA Meeting – Winter 2017 in TOKYO

実施日：2017年12月26日

昨年末、JAA Annual meeting 2017 が開催されました。会場は新橋のトラットリア okei。お店を貸し切った開催となりました。

まずは会長の乾杯の挨拶から始まり、昨年より恒例の、1年を振り返る動画が流れました。江田さんの力作です。高知県警への納艇や境町でのイベントなど、充実した2017年を早送りで振り返りました。

続いては、夏に茨城県境町で開催される「川下りボートレース」に参加予定だったエアボートの構想について、細谷知広さんからの説明が。毎年開催される人気イベントなので、たくさんの方にエアボートを知ってもらおうチャンスです。アピール具合がポイントとなりそうです。

(残念ながら、このあと参加しない方向に決定。参加を予定していた茨城県境町の「川下りボートレース」は、開催日が6月に変更になったため、スケジュール的に参加が難しくなりました。)



カクテルラウンジ風のボートになる構想だった

歓談のあとには、メインイベントが3つ続きます。まずは恒例の佐々木会長のマジックショー。

なごやかな雰囲気…と思ったその直後、スペシャルゲストが登場！ 佐々木会長のマジックの師匠、デヴィッド・ラムゼー氏本人が来日したのです。会長のマジックも鮮やかですが、やはりプロは違います。華やかで流麗、そして何がどうなっているのかさっぱりわからない見事なショーが繰り広げられました。



サプライズ登場のデヴィッド・ラムゼー氏

興奮冷めやらぬ中、立て続けにもう一つの大イベント。今回初の試みの「JAA オークション」です。会員のみなさまから提供していただいたエントリー品の数々に、パーティーの間に入札してもらいました。その中から最高値で落札された方には、一言ずつご挨拶していただきました。

イベントのトリを飾ったのは、おなじみの「JAA-AID」。表に書かれた好きな数字とアルファベットに1口1000円で名前を書き込んでもらい、司会者がくじを引き、3位4,583円、2位13,750円、1位は36,666円の賞金が渡されました。そのうち半分はJAAへのエイドとして寄付していただきました。みなさまありがとうございました

大騒ぎのイベントのあとには、JAAの本来の目的である「救助」について考えるひとときとして、株式会社MED-1Asia 代表取締役 杉浦 真様にスピ

一ちをしていただきました。MED-1Asia は、米国 MED-1 Partners の一員として、医療・科学分野のシステム開発やシンポジウム・学会等の開催支援、医療用特殊車両・船舶の企画・開発販売に力を入れている会社。その中で、災害時におけるエアポートの役割として、病院船との連携の可能性についてのお話をさせていただきました。

終わりの挨拶は佐々木会長から。ここで、あらたに副会長となった荒井さんと、コアメンバーとして参画することになった、会長の長男・佐々木鉄兵さんの紹介もありました。これからの JAA の活動の重要人物として、活躍が期待されます。



荒井正也さん (左)



佐々木鉄兵さん (左)

開会からラストまで、楽しい催しが目白押し、サプライズもいっぱいで大賑わいの Annual Meeting2017。約 40 人の方がご参加くださいました。ほんとうにありがとうございました。そしてこの 2 時間半の進行管理を務めてくれた関川香織さん。サブ司会も兼ねつつ時間配分を考えスムーズな進行でみなさんを楽しませて、くれありがとうございました。



オークションレディを務めた脇坂玲子さん (左)

2017 年も、たくさんの方のご協力のおかげで楽しく幕を閉じることができました。2018 年、またさらにエアポートをたくさんの方に知っていただき、また救助活動にも役立てる JAA となることを誓う会となりました。



会場：トラットリア okei

■住所 東京都港区新橋 1-14-8 2F、3F

■電話 03-3597-5225

5. 【Airboats Tips】

エアボートとホバークラフトの違いについて 第3回

エアボートには救助艇としての優位性がある

これまでいろいろな方々にエアボートの話をする度に「それってホバークラフトですか?」とか「ホバークラフトみたいなやつですね!」と言われてきました。私だけでなく、JAA メンバーの方なら一度はこんな経験をお持ちなのではないでしょうか? せっかくエアボート協会のメンバーになったのだから、その違いは知っておきたいと思いませんか?

そこで、Leading Edge では 2016 年夏号、秋号でエアボートとホバークラフトの違いについてお伝えしてきました。(Leading Edge のバックナンバーはホームページに掲載されていますので、よろしければご参照ください。) その2回を通じ、構造や悪路走破性の違いについてお伝えしました。今回は、落水者救助能力を比較してみたいと思います。

落水者により近づくことができる艇とは?

前回までの話で、ホバークラフトは浮上するためにゴム製スカートから空気を吹き出して浮上している事をご理解いただけたかと思います。船体を浮上させる程のエアを吹き出しているわけですから、落水者に近づく時には、強烈な風が落水者を襲うこととなってしまいます。

だとしたら、クッションエアの排出を切れば良いのでしょうか。ところが、大抵のホバークラフトは重量の問題から1つのエンジンで推進力と

クッションエア発生をまかなっています。つまり、クッションエアの発生を抑えると推進力(プロペラで発生させる風)も失うことになります。また、この推進力(風)の方向を変化させることでホバークラフトは旋回することができるのです。クッションエアを出さないようにすることは、すなわち旋回するための風も小さくなり、船体操作性を大きく損なうことにつながります。ホバークラフトは、クッションエアを出さずに要救助者のもとにたどり着くことそのものが難しくなってしまいます。たとえクッションエアの排出を切って救助できた場合、スカートの中に大量の水が入ってきて、再浮上時はおびただしい量のスプラッシュが発生します。それが数分続いた後にホバーするため、水上でのエンジン停止自体が推奨されていないのです。

一方で、エアボートは船だけの浮力で水上に浮いているため、クッションエアを吐き出すこともなく、推進力の調整と方向転換も自由自在です。

救急措置を行うためのスペースの違い

推進力とは別に、船内のスペースを確保することが、救助艇としては大きな課題となります。それは救助者の救命措置や応急措置を迅速に行うことが求められるから。この点において、小型ホバークラフトは機動性を重視する分、エンジンや艇そのものの構造特徴によって運転席以外のスペースが乏しいものになります。これに対して、エアボートは広いスペースを確保できるという、救助艇としての優位性があります。

国土が狭く、道路の幅員も狭い日本では、ホバークラフトは小型で軽量で運搬が容易であることがメリットとなります。エアボートはホバークラ

フトより大きく重く、移動にもトレーラー（免許が必要）で牽引するか、クレーンでトラックに積む必要があるため、日本では出遅れてしまったのかもしれませんが。それでも、この大きさによる救助艇としてのメリットが大きいことが徐々に災害救助活動に関わる人たちには知られてきています。

次回も引き続きエアボートの救助活動においての優位性をお伝えしていきます。お楽しみに！

（広報：細谷知広）

6. 【会計報告】2017年決算

2017年の決算は下記の通りとなりましたことをご報告いたします。（会計・江田京子）

JAA 2017年 収支状況報告

2017年1月1日～12月31日まで

収入の部	
項目	金額
前期繰越金	200,019
入会金	19,000
年会費	216,000
参加費	291,000
物販	7,500
寄付金収入	130,250
合計	863,769

支出の部	
項目	金額
イベント費用	271,063
通信費	5,520
ネット関連費	7,642
(小計)	284,225
2018年へ繰越	579,328
合計	863,553

7. 今後のスケジュール

JAA MEETING SUMMER は、詳細が決定次第 WEB・FB ページなどでご案内します。

8. 会の目的

Japan Airboat Association は「日本国内におけるエアボートの普及や安全管理」を目的としており、この目的を達成するために以下の5項目を柱に活動して参ります。

- ・ Popularization: 各種イベントの実施
- ・ Safety: 航行マナー講習、整備講習の実施
- ・ Leisure: レジャー用エアボートの提案
- ・ Rescue: 救助用エアボートの提案
- ・ Volunteer: エアボートによる地域貢献、災害時の救助活動の実施

編集協力 / 関川香織（当会員）